



はせやまの風

舞鶴市立新舞鶴小学校だより

令和 7 (2025) 年 6 月 30 日発行 学校HP

白糸中学校区「目指す子ども像」

自ら学ぶ子・人とつながる子

心も体も鍛える子・ふるさとを愛する子



何を見る？

スペインにある世界遺産「サグラダ・ファミリア」。建築家アントニ・ガウディの設計により、1882年に着工され、今現在も建設途中であり、未完成の教会としてあまりにも有名な歴史的建造物です。私も生きている間に一度は見てみたいと思っている(夢ですが…)世界遺産の一つです。



皆さんは、「外尾悦郎」という日本人彫刻家をご存じでしょうか。中学・高校の非常勤講師を勤めた後、スペインに渡り、サグラダ・ファミリアの彫刻に携わっている人です。ただ携わるということだけでなく、2013年からはサグラダ・ファミリア主任彫刻家に任命され、ガウディの残した設計図からサグラダ・ファミリアに組み込まれる彫刻などの装飾を総監督している人物です。

ある時、外尾氏がガウディの設計図や資料が何も残っていない部屋の彫刻を任されました。これまではガウディが残したものを基に進めていくことができていたのですが、何もない所からガウディが目指したものを作り出していくというとても難しい任務を担うことになったのです。彼は、まさに真っ暗闇に放り込まれたように、まったく動けなくなり、とにかくガウディという建築家を幾日も幾日も見つめ直し、目指すものを見出そうしましたが、なかなか答えは見つかりませんでした。そんなときに「ガウディ」という人物を見るのではなく、「ガウディの見ている先・方向」を見ることをふと考えてみました。するとその見方を変えることで、真っ暗闇の中に一筋の光明が差し込み、仕事に取り掛かることができたそうです。もちろん外尾氏は、ガウディについてその人となりや十分に踏まえた上でのひらめきだったとは思いますが、「ガウディを見るのではなく、ガウディの見ている方向を見る」何か禅問答のような話ですが、この話を知った時に我々の仕事にも通じるところがあると感じました。

困り感でSOSを発している子どもに対して、どんな支援が必要なのか、この子は何を求めているのかを考えると、その子を見るのではなく、その子の見ている先・方向（どうなりたいのか、今のSOSの先には何があるのか）を考えることで、その子の望みであったり、今求めている支援であったりが見えてくるのではないかと考えます。「何かを求めて泣いている子」「イライラして気持ちが落ち着かない子」「何か不安で、怯えている子」等々、日々の学校の中では、いろいろなSOSが子どもたちから投げかけられます。その子のその行動だけにとらわれることなく、見方を変えることで問題行動と見えていることが、その子がもがき苦しんでいる姿の現れであると捉え直すことができます。そう捉えることが個に応じた支援の第1歩になると考えます。学校は一人一人いろいろな個性を持った子どもの集合体です。一人一人の子どもについて、十分把握することは欠かせませんが、支援を求めている子どもの目線で、その子どもがしている先を横に並んで見つめることも必要な関わり方であることを再確認しながら、どの子にとっても居場所・やりがい・つながりのある学校を創っていきたいと考えます。



7月に入ります。この間、新学年がスタートしたと思っていたら、もう1学期も最後の月を迎えました。本当に月日の経つのは早いです。7月は、1学期のまとめです。1学期の学校生活を振り返り、成果は確実に自分の力として身に付くよう、課題は少しでも克服できるように、残りの日々をしっかりと生活させたいと思います。そして、気持ちよく夏休みを迎え、さらに充実の2学期へとつないでいきます。7月も保護者・地域の皆様の変わらぬご支援をどうかよろしくお願いいたします。

校長 亀井 敬介 教職員一同

心の健康観察

6月から児童のタブレットを使って、「心の健康観察」という取り組みを始めています。朝の会では体の調子を聞く「健康観察」はこれまでから行っていましたが、「心」の部分を確認することは、表情を見たり、行動の様子を観察したりすることで補っていました。それを子どもの自己申告ではありますが、タブレットを通じて可視化する取り組みです。

児童は朝登校したら、タブレットから今日の自分の「心」の状態を表情マークとその理由を選んで、回答します。担任はそのマークを確認し、「泣き顔」や「しょんぼり顔」を選んで児童に声をかけ、話を聞くようにします。児童の心のわずかな変化も見逃さず、対応していきます。

